

# 令和4年度学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校 児童生徒が心身共に健康で、持てる力を発揮できる学校 児童生徒が将来への自信や生きがいを感じ、自立（自律）できる生活力を育成する学校 児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校
--------	---

重点目標	1 児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。 2 保護者・地域の学校等関係機関との連携を密にし、交流及び共同学習、支援籍学習、現場実習、研修会、巡回相談の内容を充実させて、地域の特別支援教育に貢献する。 3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	個別の教育支援計画（支援プランA B、移行支援計画）は、就学・入学前からの情報収集やアセスメントを活用した実態把握に基づき、作成支援は教育課程検討委員会、自立活動部、進路指導部等が中心になって教職員を支援し作成している。指導計画の作成は経験や専門性を要するが、今年度新規に着任した教員が多く、基本的な支援が必要な状況である。	個別の教育支援計画作成と活用の推進	①個別の教育支援計画（支援プランA B、移行支援計画）の作成意義、作成に関する研修を行う。（年度当初） ②教育課程検討委員会、自立活動部、進路指導部のメンバーが中心となって作成支援を行う。 ③本人、保護者との共通理解を図る。 ④支援籍学習、関係機関との連携に活用する。 ⑤PDCAサイクルで計画の修正、改善をする。	①研修実施の有無と回数は適当だったか。 ②支援の有無とその成果はあったか。 ③実施時期と回数は適当だったか。 ④活用の有無とその成果はあったか。 ⑤手続きに係る実施時期は適当だったか。		
	校内では全校研修をはじめ公開授業研究など実施し授業力向上に取り組んでいる。昨年度は、他校とオンラインで研修を行うなど新たな試みも行った。ICTを活用すれば他校との交流も可能である。他校の取り組みも参考に一人一人の授業力を高める。	授業実践力の向上	①自立活動等、校内全体研修を実施する。 ②教科領域、ICT等の希望研修を実施する。 ③学校研究テーマに沿った研修を実施する。 ④各種校外研修への参加を促す。 ⑤他校との研修等による交流を実施する。 ⑥公開授業、授業研究会を実施する。	①実施の有無と回数は適当だったか。 ②実施の有無と回数は適当だったか。 ③実施の有無と成果物はあったか。 ④参加職員数、参加回数はどの程度か。 ⑤実施の有無と回数は適当だったか。 ⑥実施の有無と回数は適当だったか。		
2	昨年度、保護者への連絡方法や関係機関へのアンケート依頼をメールやオンラインで行った。通知文書より内容がわかりやすかったり、伝達が早かったり、集計がスピーディ、効率的になるメリットがあった。通知文書や各種便りなど、受信者の立場を考えた現状を見直し改善を図る。	学校の取り組みに係る情報発信の改善	①緊急連絡の受信状況を把握し対応する。 ②保護者宛文書やお便りなど要旨が伝わりやすいものになっているかを見直し改善を図る。 ③HPの更新と各種便りの定期発行を継続する。 ④学校公開、授業参観を実施し、内容を見直す。 ⑤各種アンケートの実施方法を見直し改善する。	①受信状況を把握し対応したか。 ②起案決裁時に見直した内容はあったか。 ③定期的に更新状況をモニターしたか。 ④具体的な見直し内容とその成果の有無。 ⑤具体的な見直し内容とその成果の有無。		
	児童生徒の支援籍学習や関係校との交流学习は実施方法を工夫し取り組んでいるが今後も継続して取り組む。また、地域の関係機関と連携を図る際、事案によっては適切な連携先に迷うことがある。情報を収集し適切な連携先の確保につなげる。	関係機関との連携強化	①医療、福祉機関との連携は継続して取り組む。 ②関係校とは連携方法を工夫し、連携を継続するとともに、地域への教育支援を積極的に行う。 ③連携機関のニーズの把握に努め、可能な限りオーダーに応える。特に就労、実習に関わる事業所等は生徒の進路実現に資するよう対応する。 ④SC、SSWなど教育機関の相談支援をはじめ外部専門家を積極的に活用する。	①連携において問題や課題はなかったか。 ②継続の有無と工夫した内容はあったか。 ③具体的な対応の内容とその回数はどの程度だったか。 ④具体的な対応の内容とその回数はどの程度だったか。		
3	校内の感染防止対策に日々取り組みながら、防災マニュアルの見直し、引き取り訓練を実施した。引き続き施設設備の点検、緊急時の対応訓練等を行って、児童生徒の安全を確保する。	学校安全の点検整備	①定期訓練はPDCAサイクルで常に見直す。 ②安全点検後の処置の確認を徹底する。 ③ヒヤリハット事例の記録とともに周知を徹底する。 ④各種マニュアルの点検、見直しは不断に行う。	①実施の有無と見直した内容はあったか。 ②事後処置の状況は周知できたか。 ③事例を記録し、周知はされたか。 ④見直し実施の有無と具体的な見直し事項はあったか。		
	健康教育部による指導案が計画的に提供され、各学部で活用されている。養護教諭による授業も実施している。保有する教材を活用して授業実践を蓄積する。	健康教育の充実	①健康教育部から提案される健康教育指導案を活用する。 ②各学部の年間指導計画に位置づけ実施する。 ③養護教諭による授業を実施する。 ④保管教材の活用と蓄積をする。 ⑤指導案データを蓄積する。 ⑥余暇活動（パラスポーツ等）に関する情報提供をする。	①指導案の活用の有無 ②指導計画に位置づけ実施をしたか。 ③実施の有無とその回数は適当だったか ④教材活用の有無と蓄積状況はどうだったか。 ⑤蓄積の有無とその状況はどうだったか。 ⑥提供の有無と提供方法及び内容はどうかだったか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	